



市民病院通信

西尾市民病院DMAT隊

西尾市民病院は、19年3月に西三河地域における災害拠点病院に認定されました。

その災害拠点病院の機能を十分に果たすために「DMAT隊」を立ち上げました。DMATとは「Disaster Medical Assistance Team」の略で、医師、看護師、業務調整員で構成されるチームです。災害発生直後の超急性期に被災地に入り、必要な医療を行い、救える命を救うことを目的に活動を行います。

現在の主な活動は、大規模災害を想定した実動訓練や県・市町村の防災訓練への参加、自施設での防災対策の企画運営やDMAT技能維持研修への参加などで、防災のための活動・災害時の備えなどを行っています。当院では1年に1回以上の防災訓練を行っており、その中でトリアージ（患者の重症度に応じて治療の優先度を決定し、振り分けを行うこと）訓練も取り入れています。DMAT隊はこの訓練で、職員への知識・技術習得のための講義や実技演習などを行っています。

今後、発生が危がまれている東海・東南海地震では、広範囲の被害が想定されています。西



尾市でも予想震度は7となっており、その場合の死者は1800人と予測されています。

大規模災害がいつ起こっても地域全体で対応できるよう、DMAT技能維持研修などで得た災害や防災に対する知識を当院だけでなく、近隣の医療施設にも広げていき、この地域の医療関係者の多くが災害に遭遇した時においても、迅速に医療活動に参加できるよう、地域全体で防災意識を高めていきたいと思えます。

問 市民病院管理課（☎56・3171）

市民病院Q&A

Q

嚥下障害と認知症は関係がありますか？

摂食・嚥下障害看護認定看護師 畑中英子

A

嚥下障害というと、単に「ごっくん」という飲み込みが悪いことと思いがちですが、食べ物を認識できないことや自分で食べられないことなど、食行動に関連した障害も含まれます。



認知症が進むと「自ら食べようとしないう」集中して食べられない「口にためて飲み込まない」「一口の量が多い」「食べるペースが早い」「むせる」などの症状がみられ、食べることへの支援が必要になります。

認知症の方の食べ方の特徴をしっかりと観察し「調子の良いときに食べたいものを食べたいときに勧める」「自分でやれることは見守る」「器や盛り付けを工夫する」など、その人が食べる力を発揮できる環境を整えることが食べるきっかけにつながります。

また、認知症の方は口の中の手入れが十分にできず、肺炎になりやすいともいわれています。入れ歯や口の中のお手入れを心掛け、おいしく食べられる口づくりもお忘れなく。

問 市民病院管理課（☎56・3171）